

知覚運動論		講義	教授 井田 博史	
科目カテゴリ	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11301209 12220209 13312204	

1. 授業のねらい・概要

知覚は行為の手段であり、行為は知覚の手段である。知覚と行為（運動）は機能的に繋がっており、日常生活においてもスポーツ場面においても、これらを高度に連携させることが、効率的で合目的な運動行動を遂行するために必要となる。本授業では、まず主に視覚系の感覚情報処理についての基礎理論を学び、さらに知覚運動に関わる学問領域の横断的な解説を交えながら、知覚と運動の機能的連携に対する理解を深めていく。また、実際の学术论文で示された結果を概覧しながら、過去から現在までの研究トピックに触れ、将来に向けたこの分野の展望を考察する。

2. 授業の進め方

主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。話題にした現象や方法論についての体験的学習を盛り込みつつ、一方、研究トピックの回では関連する学术论文を紹介しながら解説を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 【研究トピック】 バイオロジカルモーション
2. 眼球光学系と神経生理	10. 奥行き手がかりと両眼視
3. 光の強度と色覚	11. 【研究トピック】 ヴァーチャルリアリティ
4. 視覚系の時空間特性／錯視	12. 空間視／中心視と周辺視
5. 知覚運動行動に係る用語の解説	13. 【研究トピック】 動く部屋の実験と感覚の重みづけ
6. 運動視／知覚行為カップリング	14. 眼球運動／選択的注意
7. 【研究トピック】 外野手問題	15. 【研究トピック】 視覚探索と視線解析
8. 運動検出と形状知覚	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに 30 分程度、また課題が出された場合はさらに 30 分程度以上の準備学修を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験期間中の同時限内において、解答のポイントや出題の意図について全体説明を行い、個別質問にも応じる。

6. 授業における学修の到達目標

感覚系と運動系の情報処理過程について基本的な概念を理解し、あわせて実際の学术论文の構成や論法に親しむ。

7. 成績評価の方法・基準

試験（50%程度）、受講態度と参加・活動状況（10%程度）、毎回の小テスト（40%程度）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

「視覚 I—視覚系の構造と初期機能—」（内川恵二・篠森敬三：朝倉書店）、「視覚 II—視覚系の中期・高次機能—」（内川恵二・塩入諭：朝倉書店）、「現場で生きるスポーツ心理学」（石井源信ほか：杏林書院）を参考図書とする。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。